

特集 八幡神社からみる雪谷地区

八幡神社は村の鎮守として信仰され、近世後期の大田区域内には26社の八幡神社が存在しました。現在雪谷地区には子安八幡神社と雪ヶ谷八幡神社の2社があります。初詣で神社に足を運ぶ機会が多くなるこの時期、八幡神社を通して雪谷地区の歴史や文化に触れてみませんか。

雪ヶ谷八幡神社

雪ヶ谷八幡神社の創建は永禄年中(1558~1569)、北条左京太夫氏康の家臣、太田新六郎(太田道灌の曾孫)が管内巡視の際、当所において法華経曼荼羅の古碑を発掘し、その奇瑞に八幡大菩薩を祀ったのが創始とされ、爾来、旧中原街道沿道随一の由緒深き神社として諸人の崇敬を受け、雪ヶ谷の里、氏子6自治会(希望ヶ丘・東雪谷東中・東雪・笹丸・雪谷石川台・南雪谷)の鎮護の神として、多くのご参拝を頂き、今に至ります。

社殿は昭和20年5月戦火により焼失し、氏子崇敬者の赤心のもと昭和34年8月に現社殿が造営されました。境内には氏子崇敬者の祖霊を祀る齋霊殿(いつれいでん)、稲荷社や天神社などの末社8社、大田区文化財指定庚申供養塔群、不世出の大横綱大鵬関奉納の出世石などがあり、鎮守の社は四季折々人々の憩いの場として親しまれています。

年明け初詣に始まり、2月節分追儼(ついな)式前夜祭、3月お人形感謝祭、5月泣き相撲、6月夏越大祓(なごしおおはらえ)、9月例大祭、11月七五三詣、12月年越大祓に至るまで多くの恒例祭典が行われ、3月防災訓練、4月新入学児童安全祈願祭、5月こいのぼりお絵かき、夏休みラジオ体操会、もちろん9月祭礼は自治会と連携し行われます。

神社は氏子崇敬者の皆様のお支えにより、共に歩いて参りました。これからも地元の氏神様として、地域の発展とご安寧を願い、地元の皆様と歩んで参ります。

(雪ヶ谷八幡神社宮司・北川 正訓
取材：笹丸・小久保 衡子)



〈雪ヶ谷八幡神社 社殿〉



〈雪ヶ谷八幡神社 神額〉



〈雪ヶ谷八幡神社 出世石〉



〈子安八幡神社 神額〉



〈子安八幡神社 鳥居〉



〈子安八幡神社 社殿〉

子安八幡神社

森の鎮守様

私たち、「上池上自治会」内には、「子安八幡神社」が鎮座しています。子安八幡神社には、上池上の他に、小池、池の台と広い範囲でご加護をうけています。毎年9月の第一日曜日に例大祭を開催し地域の安寧を祈っていますが、昨年は10月10日(祝)に本殿落成記念・例大祭を執り行い、近隣の皆様とともにお祝いをいたしました。(例大祭の神事は、9月4日に、コロナウイルスも関係し役員だけで執り行いました)

子安八幡神社が新しくなりました

子安八幡神社は、鎌倉時代の1256年6月14日に、領主池上右衛門太夫宗仲が鎌倉・鶴岡八幡宮を分祀したことに始まります。そしてかつての上池上町の鎮守様としてあがめられてきました。その後、子安八幡神社は大正14年7月30日に神殿が焼失したことにより、昭和2年9月1日に建て直しました。

しかし、この神社も長い年月による老朽化のため傷みが激しく、令和2年より建て直すことになり、令和3年に着工、令和4年夏94年振りに完成いたしました。

10月10日は、お祝いに華を添えるべく、神輿4基を組上げ、舞・雅楽が奉納され、コロナウイルス禍久しぶりの華々しい時間を堪能しました。

(上池上・舩山 康夫)